

# 職場における 交通安全指導

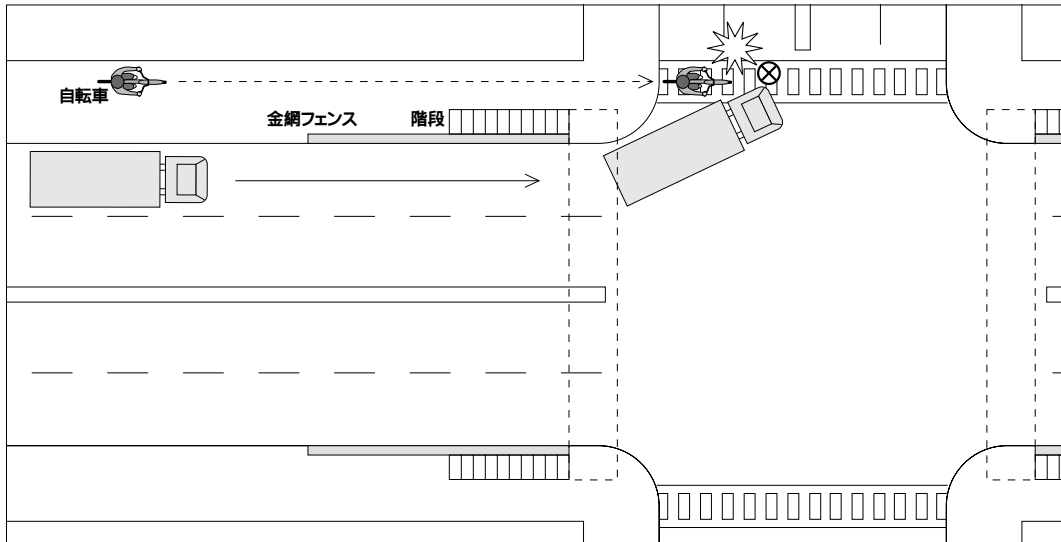
Part 58

事故事例に学ぶ

25

巻き込み事故

## 交差点を左折時に自転車と衝突



### 事故の概要

#### 発生状況

日時：平成15年10月某日 午後7時30分頃  
天候：晴れ

#### 道路状況

市街地の県道で、片側2車線、信号機がある  
交差点の横断歩道上

#### 事故の当事者

運転者A（大型トラック）：52歳、男性  
被害者B（自転車）：28歳、女性

#### 被害状況

A：前部バンパー左側擦過痕  
B：右上腕部および鎖骨骨折、  
全身打撲等（全治6か月）

### 事故状況

Aは、大型トラックの運転歴が27年で、その間、  
交差点における出会い頭の重傷事故1件、軽微な  
追突人身事故2件を含め計5件の事故歴のある運  
転者であった。

事故当日は、県外2か所の工場から冷凍食品を

積み込み、事故現場から約2km離れた倉庫に搬送途  
中であった。

事故当時の現場の交通の流れは比較的スムーズ  
で、前車と適度な車間距離をおいて走行中、事故  
現場である交差点の約200m手前に差しかけた  
際、同交差点の信号が赤であることを確認した。

Aは進行速度を幾分緩めて走行を続けたが、こ  
の時、自車左方の歩道上に無灯火で自転車に乗っ  
たBが、自車と併進する形で走行しているのを認  
めていた。

交差点付近に至ったところ、信号が青に変わっ  
たため、早めに合図を出し左折する態勢に入っ  
たが、交差点から手前約30mの間は、歩道橋の傾斜  
した階段や、歩道に設置された金網フェンスに掲  
げられた看板、ポスター等に遮られ、その間が「死  
角」になり、歩道を併進中のBの姿は見えなくな  
っていた。

Aは左折する際、Bの存在が気にはなかったが、普  
段から通り慣れた道路で、いつも交差点を左折す  
る歩行者が多いことも頭にあり、「Bは歩道を左折  
する」か、もしくは、「歩道上で自車が左折するの  
を待っている」ものと安易に『思い込み』、さした  
る警戒心もなく漫然と左折を開始したところ、横  
断歩道を走り抜けようと交差点に進入してきたB

の自転車と自車前部バンパー左側が衝突し、Bは自転車ごと転倒して重傷を負ったものである。

Bは事故当時、アルバイトに行く時間がいつもより遅れてしまい、店の仕度が気になって相当に慌てていたことから、交差点に進入する際もスピードを緩めることなく、また、周囲に眼もくれず、ただひたすら前方だけを見て進行していた。

## 安全指導

### 『思い込み』に注意

Aの場合、事前に歩道を併進しているBを認知していたにもかかわらず、「すぐに交差点へは進入してこない」と『思い込み』何ら警戒することなく、安全確認を怠り事故が発生した。

交差点では、『思い込み』が原因となった事故が多く発生しています。

一旦、思い込んでしまうと安全確認を怠るケースが多いため、しばしば重大事故に繋がる可能性があります。

事故発生率から見ても、交差点は最も事故の危険性が高いところであり、当該事故の場合、夜間であり、しかも急ぎ走行中のBを事前に認知していただけに、左折をする際には、十分に徐行し状況により一時停止して、注意深く安全確認をする必要がありました。

### 『死角』に注意

Aが、歩道を併進中のBを継続して認知していれば、『思い込み』に陥ることもなかったと考えられますが、歩道橋階段等『死角』部分の読みの甘さが事故の要因になったといえます。

ドライバーは、眼に見えたものを認知することは勿論ですが、自分の目や、ミラーで捉えられない『死角』に潜んでいる危険を予測し、事故防止に結び付けていくかが重要です。

特に、大型トラックは車両自体に眼やミラーで捉えられない『死角』が多く、ひとたび、事故が発生すると重大事故になる危険性を常にはらんでいることを思えば、交差点通過時のように、『死角』による危険が多い所では、最大限の注意を払い、眼に見えない危険を読み取ることが求められます。

### 『左折時の巻き込み』に注意

大型トラックの交差点左折時には、右折時と異なり、後方を自分の目で直接確認できないため、ミラーに頼らざるを得ません。

ミラーの場合は、見間違い・見落としのケースが考えられ、特に、夜間はそれが顕著であることから、より慎重な運転を心掛けなければなりません。

大型車の場合、特に注意を要するのが『内輪差』による事故です。交差点を左折する際には、『内輪差』による巻き込み事故の危険を十分考慮に入れた運転をすることが必要です。

### 『慣れと過信』に注意

当該事故の場合、普段通り慣れた道路であったことが判断の甘さ、『思い込み』を生み、また、注意力を弛緩させたと推測されます。

そしてその背景には、ベテランドライバーの運転に対する過信が影響していたのではないかと考えられます。

30代過ぎで運転経験10年以上のベテランドライバーほど、重大事故を起こしやすいというデータもあります。

安全運転には常に謙虚な気持ちが大切で、また、ヒヤリ・ハットした時には、「そろそろ重大事故の前兆ではないか」と、気持ちを引締める用心深さも必要です。

### 『夜間の自転車横断』に注意

住宅街の生活道路等の広い歩道、中でも自転車通行可能な歩道では、自転車が速いスピードで、しかも無灯火で交差点の横断歩道・自転車横断帯に急に進入してくることがよくあります。

夜間は発見の遅れや見落とし等の危険が増し、重大事故となるケースがよくあるので、交差点の右左折時には十分に徐行し、周囲の動向を注意深く窺いながら、慎重な運転を心掛けましょう。

### 交差点事故

組合における「交差点事故(人身)」の発生割合  
全発生件数723件のうち364件(50.3%)

交差点で5割・その他で5割